

# 2014年度 第2四半期 決算説明資料

明豊ファシリティワークス株式会社

2014年11月10日



# 1 2014年度 第2四半期のトピック ①

(各項目を円単位計算後、百万円未満切捨て)

		2013年度 2Q	2014年度 2Q	前年同期比較
定 量 面	売上高	3,599	3,665	65
	売上総利益	703	705	1
	売上総利益率	19.5%	19.2%	△0.3%
	営業利益	244	174	△69
	経常利益	203	147	△56
	当期純利益	126	93	△32

## 2 2014年度 第2四半期のトピック ②

定性面

「受注概況と、  
幅広い分野からの  
CM手法の採用」

### オフィス事業

日本国内における事業再編の動きは継続しており、事業所移転などの需要が継続しております。

当社のCM手法によるPM（プロジェクト・マネジメント）サービスは、移転の可否やワークスタイルの方向性を検討する構想段階およびビルの選定から引越しまでワンストップで支援することが可能であります。

グループ企業の統廃合、地方拠点の集約化、またオフィスビル新築同時入居など難易度の高い事業所移転に高い優位性を発揮しました。

### CM事業

労務費や資材の高騰等により建築費予算超過に悩まれた顧客からの引き合いの他、建設を伴う新規事業のプロジェクト化など多くの提案機会がありました。

その結果、建物の新築・リニューアルのみならず、基幹設備老朽化に関連した空調・電気設備の更新について、民間企業だけでなく公共機関からも幅広く受注することができました。

公共分野では、平成26年4月に大阪府立大学が一般公募した「大阪府立大学の学舎整備事業のCM事業者募集」にりそな銀行と共同で応募し、5年連続で受注することができました。

また5月には、千葉県市原市の防災庁舎建設、9月には大阪府立環境農林水産総合研究所におけるCM業務を受注することができました。

### CREM事業

大企業向けを中心に、保有資産の最適化をサポートするCREM（コーポレート・リアルエステート・マネジメント）事業については、当社技術者集団による透明なプロセス（CM手法）が、多拠点施設の新築・改修だけでなく基幹設備の維持管理にも優位性を発揮致しました。

工事コスト管理や、保有資産のデータベース化による資産情報の集中管理など、顧客ニーズに合わせて事業性を高めることのできる当社の専門性およびマネジメント能力が、着実に顧客の評価を獲得出来ており、金融機関・複数のオフィスビル・商業施設を保有する大企業から継続してご依頼頂き、受注は堅調に推移致しました。

### 3 2014年度 第2四半期のトピック ③

#### 定性面

##### 環境・省エネ対応について

各企業様の省エネや環境に対する意識は依然として高く、当社のプロが持つ高い技術的専門性によって、顧客の環境目的達成を支援しています。

環境に配慮した最新の技術・手法を活用し、建物の全ライフサイクルを通じて環境負荷低減の設計及びオフィスや保有資産の中長期的な維持管理計画を立案し（ライフサイクルマネジメント）、コスト削減と環境負荷低減を行うなど、当社独自のマネジメント手法にて最大の投資効果を得るべく支援しております。

当社は都心を離れた遠隔地にゼロエネルギーを実現する大型オフィス建物の基本計画・調達・施工監理業務についても遂行しました。今後も環境対応事業範囲の強化と需要拡大に対応すべく、社内において既にCASBEE建築評価員資格保有者22名、および米国グリーンビルディング協会公認LEED AP資格保有者1名が在籍しております（平成26年9月末現在）。

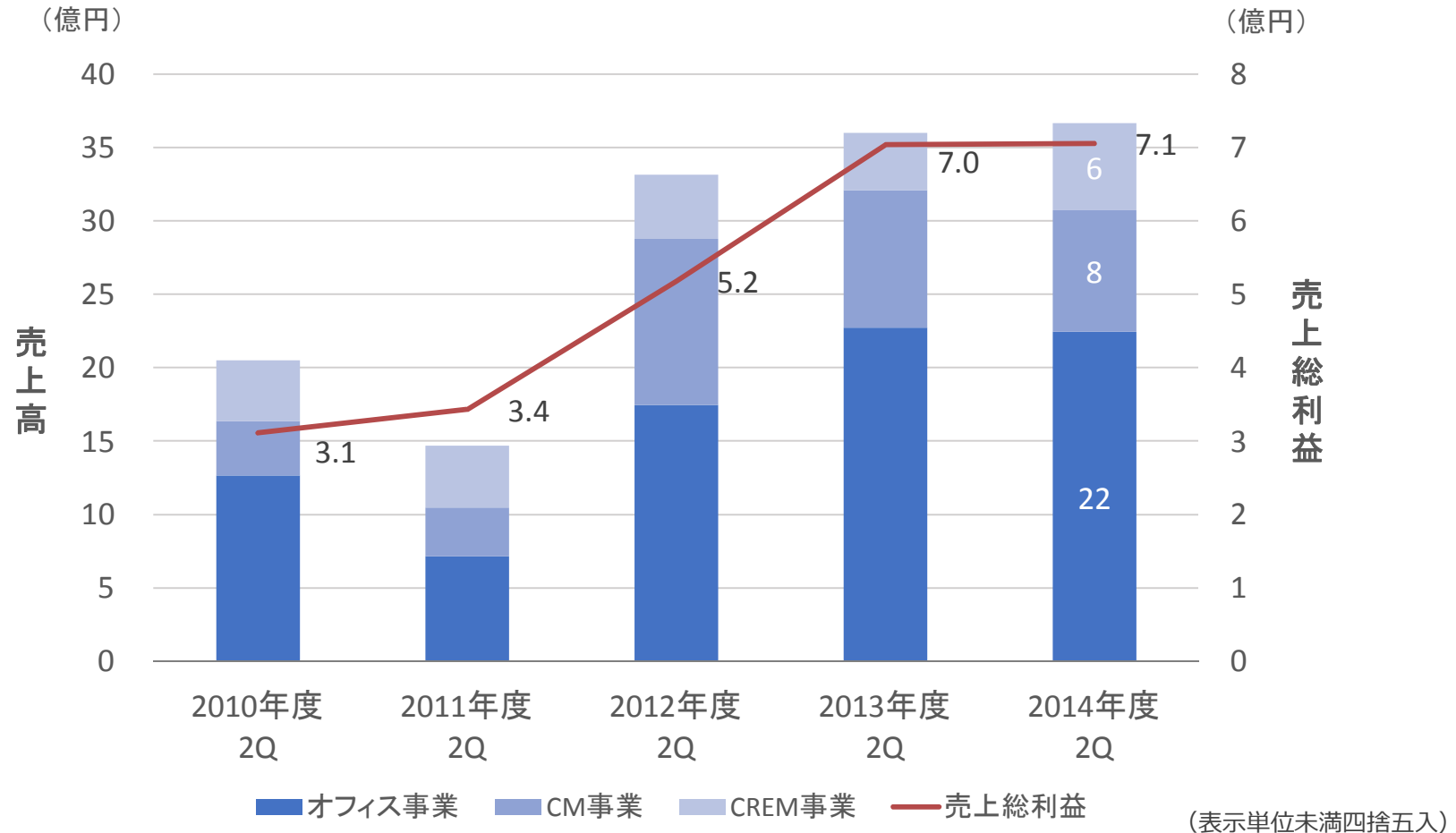
##### 海外PM会社との業務提携

当社は、平成22年6月に国際的な建設コンサルタント及びPM（プロジェクト・マネジメント）会社として長い歴史と実績のあるSweett Group Plc（本社英国）と、建設プロジェクトの分野において、全世界を対象とした戦略的提携をしております。両社はこの提携を通じて、顧客ニーズのグローバル化に対応すると共に、互いのネットワークとノウハウを活用し合うことで、新たなビジネスチャンスを創出しております。

Sweett Group Plcより紹介を受けた英国アミューズメント企業の日本進出プロジェクトにおけるPM業務につきましては、複数の拠点での業務が完了し、引き続き新たな業務を遂行しています。

## 4 売上高と売上総利益の推移

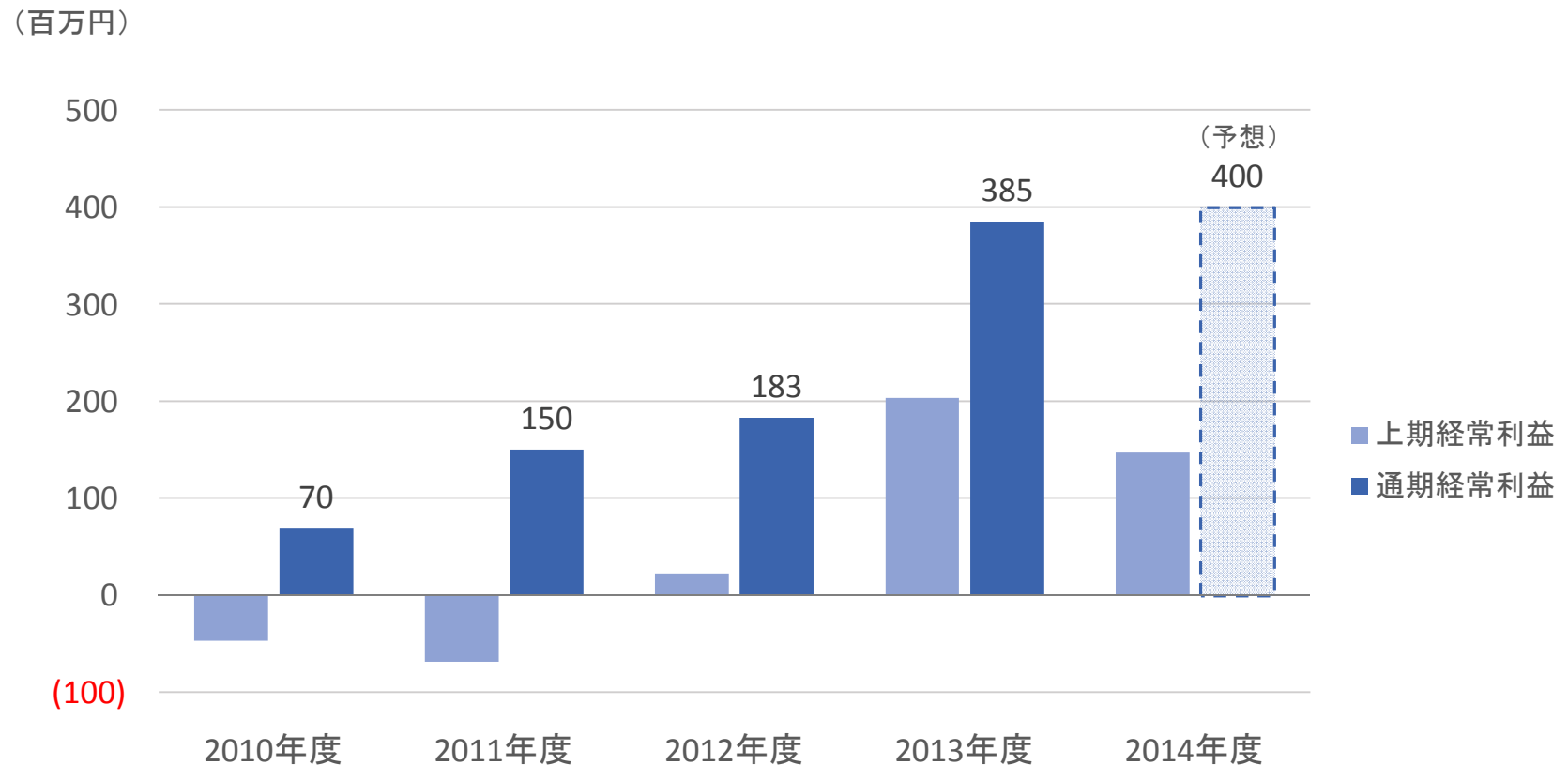
好調な引き合い状況により、売上高・売上総利益とも増加しております。



※ 当社の売上高は、フィーのみで構成されるピュアCM方式と、フィー+調達原価で構成されるアットリスクCM方式などとの間で、その金額が大きく異なります。

## 5 経常利益の推移

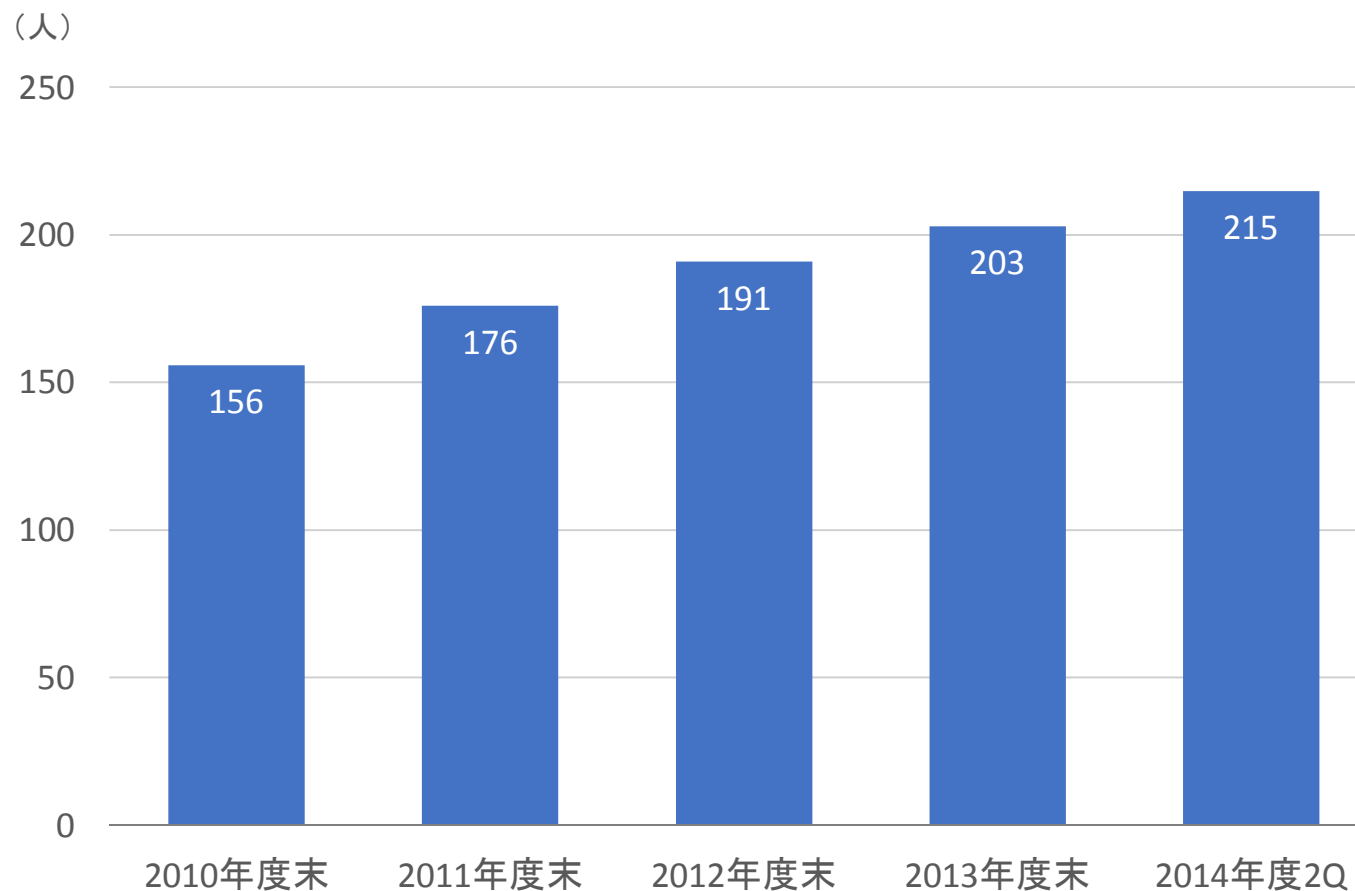
通期経常利益は、5期連続増益を予想しております。



(表示単位未満四捨五入)

## 6 社員数の推移

引き合い状況を踏まえ人材の強化に努め、12名純増となる215名体制になっております。



(注) 役員および契約社員、派遣社員等を含む

## 7 売上粗利益の定義及び開示に関するポリシー

$$\text{売上粗利益} = \text{売上高} - \text{社内コスト以外の売上原価（工事費等）}$$

当社の売上高は、フィーのみで構成されるピュアCM方式と、フィー+調達原価で構成されるアットリスクCM方式など、その金額が大きく異なります。

そのため、社内では売上粗利益（売上高から社内コスト以外の売上原価を控除した金額）にて収益の伸びを管理しております。

お客様との守秘義務契約を考慮し、今後もこれまで同様、売上粗利益の開示は控えさせていただきます。





# Meiho Facility Works Ltd.

Architecture, Interiors, Planning, IT, M&E Engineering, Project Management

本説明資料に含まれる将来の見通しに関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる場合がありますことをご了承ください。